

# 令和6年度 組織重点目標一覧

課名	組織目標	係名	具体的目標	達成水準	達成状況	達成状況評価
子ども支援課	ベビーファースト活動宣言に基づき、子育て支援体制や保育サービスの充実及び経済的負担の軽減を推進するとともに、誰もが希望をもって子育てをできるような切れ目のない支援に取り組む。	子ども企画係	「子育てのまち利府町」を目指し、積極的に子育て支援策に取り組む。 1 子ども・子育て支援事業計画に基づく施策の推進に努める。 2 児童クラブ・児童館の充実を図る。 3 中央児童センターを「児童福祉施設の拠点」として子育て支援策の拡充を図る。	1 第2期子ども・子育て支援事業計画の進行管理を行いながら、第3期子ども・子育て支援事業計画に町民ニーズ等を反映した内容の計画を策定する。 2 児童センター及び地区児童館の3館が連携した事業を計画・開催し、多くの子どもたちに参加してもらう。 3 ベビーファースト活動に賛同した企業による合同宣言式等を開催し、「子育てのまち利府町」を町内外に発信する。 4 町公式SNS (Facebook、Instagram、Twitter) やLINE、広報りふ等を積極的に活用し「子育てのまち利府町」を町内外に発信する。	1 ニーズ調査及び生活実態調査を実施し、新しく策定した「利府町子ども計画」へ反映した。 2 3館連携した事業の一つとして「こどものまち」を開催し、多くの子ども達に参加してもらった。 3 令和7年度開催する赤ちゃんハイハイレースの際に、合同宣言式を行うことで調整を行った。 4 町公式SNSや広報りふを最大限活用し、子育て施策について情報発信を行った。また、多くのマスメディアに取材を受け報道されたことにより「子育てにやさしいまち利府町」を町内外に発信できた。	A
		保育係	保護者が安心して仕事と子育てを両立できる環境を整え、保護者の多様な働き方を支援する。 1 仕事と子育ての両立支援と多様化する保育ニーズに対応するための保育所における保育サービスの充実と待機児童の解消に努める。 2 子どもが安全で安心して過ごせる保育環境の確保に努める。	1 年度末における完全待機児童数 0人 (希望待機者を除く) 2 子ども・子育て支援事業計画の見直しに伴い、将来的な教育・保育の量の見込みと確保方策を設定する。 3 既存の情報発信の内容を見直し、保護者が必要な情報にたどりつきやすく、わかりやすい情報発信にリニューアルを行う。	1 令和6年度末における完全待機児童数は、77名 (0歳児69名、1歳児8名) となり、令和5年度と比較して2人の増となったが、令和7年4月において解消している。 2 子ども・子育て支援事業計画 (子ども計画) の見直しを行い、ニーズ調査の結果や現在の保育所入所児童数等から児童数を予測して、教育・保育の量の見込みと確保方策を設定した。 3 情報発信については、ホームページの更新や新たに「りーふナビ」で、にこにこ広場のイベント内容を掲載し、乳幼児親子の参加を促したほか、各施設で開催している親子教室について、乳幼児健診会場を活用したPRを実施した。	A
		子ども給付係	安心して出産・子育てができるよう、子育てに係る経済的な負担軽減を図るため適切な給付を行う。 1 子ども医療費・母子父子家庭医療費等の適正な給付 2 児童手当・児童扶養手当の適正な給付	1 各種制度に基づき、周知・手続き・給付を漏れなく正確に行う。	関係課と連携を図り、各種手続きについて周知徹底し、正確な給付に努めた。 物価高騰対応重点支援給付金の子ども加算分の支給について、対象世帯への速やかな支給に努めた。 児童手当の拡充について、新規認定者への周知・案内・受付を行い、速やかな支給に努めた。	A
		菅谷台保育所	「子ども一人一人を大切に、保護者からも信頼され、地域に愛される保育所をめざす」 1 一人一人の子どもの健康の保持及び増進並びに安全の確保に努める 2 子ども達の健やかな成長を確保するため、乳幼児期からの「食育」を推進する 3 保護者が行事等を通し子どもの成長を喜び子育ての楽しさを感じることができるようにする	1 歯と口腔の健康づくり むし歯のない子どもの増加 90.0% 2 はやね・はやおき・あさごはんの習慣を続けるよう家庭への指導の実施年間目標 ・朝食を毎日食べる人の割合 100% ・21時より前に寝る幼児の割合 75.0% ・家族と一緒に食事をする (共食) 機会を増やす 100% ※第4期健康日本21利府町計画及び食育推進計画に基づいた目標数値 3 保護者参加行事後のアンケートでの行事満足度 80%	1 歯科検診をとおし、児童のむし歯無の率が88.2%であったことから目標への到達には至らなかったが、家庭での意識付けにつなげることができた。 2 年2回の保護者へのアンケートを実施し、回答から朝ごはんの喫食率は100%であった。就寝時間に関しては保護者の就労形態からも9時台の就寝は困難で36.4%であった。保護者の就労形態の実態から目標を設置する必要があったと考える。宮城県推奨の「ルルブル」の活動をとおし保護者へ習慣づく取組を実施することができた。 3 行事及び年度末の保育所満足度を図るアンケートを実施し、回答結果からも満足度 (良かった、まあ良かった) 100%を得ることができたことから充分達成できたと捉える。	A